



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 ⑥7

～改めて新年に思いを深め～

昨年のお正月には第 32 回・2020 東京オリンピック・パラリンピックの年として、明るい一年を想像していました。思い出す遠い昔、私の 19 歳の秋、1964（昭和 39）年 10 月 10 日、東京オリンピックの開幕式の日、秋晴れの大空に自衛隊のジェット機が 5 色の五輪を描きました。とても印象的で今でも瞼の裏にその残影が残っています。それが、それが今回は……これ以上言うまでもない疫病が世界を覆いオリンピックは延期され、重苦しい日々が続いた昨年でした。でもワクチンも開発され、治療法もだんだん確立されてきた昨今です。今年が何とか穏やかな年となってほしいものです。

因みに日本のオリンピック開催には因縁があります。それは 1940（昭和 15）年、第 12 回オリンピックは東京に決定されていたのです。しかし迫りくる世界大戦を目の前にして中止となってしまいました。経緯は 2019 年の NHK 大河ドラマで仔細に描かれました。今回は新型コロナのための延期でしたが、曰く言い難しです。平和のスポーツ祭典、2021 東京オリパラオリンピックどんな形で開催されるでしょうか。平穏な開催を念じますが不安と期待を胸に秘めて、注目です。

あまり知られていませんが、戦後日本がオリンピックに復帰できたのは 1952（昭和 27）年、第 15 回ヘルシンキオリンピックからです。戦後 7 年目でした。開催国のフィンランドは貧しい北欧の小国で第二次大戦を祖国防衛戦争として旧ソ連と戦い敗れ、多くの若者が戦死、領土割譲による人口の 10%を超える難民の受け入れ、そして莫大な賠償金を払わされた国でした。しかしその敗戦をバネに、国民は協力して産業の工業化に取り組みオリンピックの開催にこぎつけたのです。一方政府は教育と社会保障を重視し、ムーミンに象徴される自然と人間の生活が調和した現在の「幸せの国」フィンランドを創造していったのです。

そしてヘルシンキオリンピックから 12 年後、フィンランドと同じ敗戦国日本も高度経済成長を成し遂げ、青空の下第 18 回オリンピックを開催したのです。その頃、自虐気味に“エコノミック・アニマル”などと揶揄され、山あり谷ありでしたが、先輩方が頑張った今の社会の基盤を作ってくれたのです。

さて、32 回オリンピックの後に私たちはどんな社会を創っていくのでしょうか。極超高齢化・人口減少社会、孤立・孤独社会、人間に代わってロボットや AI、ネットが社会を運営していくポストモダン、ポストコロナの新しい社会、どんな社会なのでしょう。多分想像を超える生活の形を形成していくエポックになっていく予感がします。そこで改めて自然人としての「人の幸せ」とはどの様なものなのか、この機会に思いを深めたいと考えるのです。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

新しい年を迎えるにあたり、「今年こそはやるぞ！」というリストを威勢よくつくってみました。優柔不断気味な自らを追い込むために公開しちゃいます。（大丈夫かな？）

①家族で宿泊旅行へ出かける。②家のリフォームをする。③年老いた両親をつれてゆっくりと温泉旅行に行く。④某アーティストの夏フェスに行く（Go to AKITA!）。⑤ツーリング（ソロキャンプ）に行く。⑥焚火をしながらワイルドにお酒を楽しむ。⑦魚釣りへ行き大物をゲットする。⑧有料型ジムへ通う。⑨体重をさらに 10 キロ落とす。⑩腹筋を 6 つに割る。⑪健康診断の数値を改善する（オール A）。⑫自分に合った手わざを持つ人と出会う。⑬全国の温泉巡りをする。⑭神社仏閣パワースポットを巡る。⑮サウナ道を楽しみ極める。⑯新しい手品をひとつマスターする。⑰十八番の歌をもつ。⑱飲み会を楽しむ。⑲職場の仲間と語らう。⑳古い友人らと語らう。笑う、飲む、笑う、飲む、手を打つ、歌う、笑う、飲む、笑う、飲む、笑う、笑う、笑う……そして、何よりも、㉑当たり前のことを当たり前にできるようになる日を信じて、「明日はきっといい日になる」と心に念じて歩いていく。2021 年、今年もどうぞよろしく願いいたします。

児童事業本部長 石田芳朗

事業本部情報

🌿 児童事業本部 🌿

至誠こどもセンターでは地域の親子や施設内の子ども達、職員のリラックスの場所となる「子育てサロン」を今年度実施予定です。その開催場所である「かしの木プラザ棟」の改修工事が完了しました。これから備品などを揃え、1月末にプレオープンの予定です。サロンの場所ですが、何年も使用されていなかったため、倉庫化していました。工事ができる状態にするため職員有志が毎週火曜日を「片付け Day」として活動し、約1年かけてようやく10月に工事の着工にこぎつけました。皆様の中にもコロナ禍でできた時間に「いつか使うから」「なんとなく捨てられない」等々の理由で放置していた品々を片付けようとしたけれど、「やっぱり見なかったことにしよう…」とした方もおられるのでは。ゴミでなかったものをゴミにしてしまう悲しさに、日ごろからの整理整頓、物を大切に扱うことを改めて感じています。

(至誠こどもセンター 所長 島田美喜)

🌿 保育事業本部 🌿

“謹んで新年のお喜びを申し上げます。”

「一年の計は元旦にあり」と云いますが、その日が幸せであれば一年間幸せであることになりませぬ!! 本年も子ども達の幸せと、健康と安心な保育園。そして、新たな時代の幕開けです。～With コロナ～の新しい生活スタイルを柔軟な発想を取り入れながら素敵な保育園づくりに邁進して参ります。今年もどうぞよろしくお願いいたします

成育しせい保育園は世田谷区国立成育医療研究センターの敷地内あり、現在もコロナ禍に緊張する日々が続いております。保育園の廻りは広い敷地内にヒマラヤ杉や四季を感じる木々が沢山立ち、都会でありながら大木の多い環境で子供たちのことを包んでくれる自然に恵まれています。子どもたちはいつも楽しい声を響かせてたくさん歩いて戸外で元気に日々を過ごしています。この環境の恩恵に感謝してこれからもコロナ対策を忘れずに職員と保護者、共に子どもたちの健康と幸せを守ります。そして地域子育て支援に繋がればと思うこの頃です。

(成育しせい保育園 園長 浦井みどり)

🌿 高齢事業本部至誠ホーム 🌿

新しい仲間の登場です。外国人介護スタッフは(フォーリンスタッフ)これまで留学生で日本語学習や介護専門学校で学びながら介護福祉士を目指す人達15名と技能実習生17名の32名でした。この度12月にインドネシアから8名とラオスから1名、合計9名の特定技能資格の人達が来日・来園しました。至誠特養・オンニ・アウリンコに配属となりました。彼らは過去に技能実習生などで日本での勤務経験があり、日本語レベルがほぼN3で介護試験も合格しており、直ちに現場へ配置して、即戦力としての活躍が期待できます。労働時間も週40時間レベルが可能です。特定技能の人達は、1月から3月4月にかけてさらに約10名来園を予定しています。春には、至誠ホームに50人のフォーリンスタッフが在籍することになります。出身国はインドネシア・ベトナム・スリランカ・ネパール・カンボジア・ラオスです。彼らは至誠ホームの人員不足をカバーしてくれる力強い存在となりますが、一方で教えなければならない知識や技術の他、外国人特有のコミュニティーの動きや考え方について行動先への注意など十分な指導が必要です。

(高齢事業本部 至誠ホーム副ホーム長兼統括事務局長 金井裕一)

本部事務局だより (希望的観測)

新しい年が希望に満ちた年になることは、誰しもが抱く希望である。しかし、新型コロナは、従来よりも感染力の強い「変異種」が現れるなど感染拡大が続き、再度のロックダウン等の対策強化を行わざるを得ない国も現れている。そんな中で「東京オリンピック2020は、コロナ禍からの復興のシンボルとして開催する」と早々と宣言する方々もいるが、これは『希望的観測』という誤謬である。一般的にこの誤謬は「私はAが真実だといいな、と思うのでAが真実である」という形で現れ、事柄の真偽を事実に基づかず希望に基づいて決定する事をいう。しかし、都合の悪い事象が起こった時、危機管理の場面で、この希望的観測で物事を決定すると、GOTOの中断のように対応が後手後手に廻り傷口を広げてしまうのである。人は明るい未来・希望がないと前向きにはなれないので、コロナ禍を克服した先には、コロナ禍を教訓に今よりもさらに良い社会や政治が待っているという希望的観測を持ちたいものである。

(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)新年あけましておめでとうございます。去年までの年越しは実家がある北海道へ帰省してましたが、今回は断念。初めて東京で年越し。羽衣町のそば屋「たかや」さんでおそばを買って自宅でゆっくり頂きます。(小)